

現行計画の施策評価シート

資料 3

基本施策		基本施策1 だれもが気軽に身近なところで文化・芸術に触れ、喜びと感動を享受できるまちづくり	基本施策2 文化・芸術の担い手育成をはじめとする市民協働によるまちづくり	基本施策3 歴史と伝統により培われた府中固有の文化を大切に、新たな文化を創造するまちづくり	基本施策4 市内外から人々が集い、文化を通して交流とにぎわいが生まれるまちづくり
施策 目標	指標名	「市民文化の日」の来場者数(人)	1年間のうちに、文化・芸術活動を行った人の割合(%)	府中市市史編さん事業による刊行物の発行点数(種類)	府中市が文化的であると感じている市民の割合(%)
	指 標 の 説明	10 月第 2 日曜日の「市民文化の日」に、市内文化施設等を訪れ、文化・芸術に触れた人数です。増加を目指します。	市民への意識調査により把握します。増加を目指します。	市史編さん事業による刊行物(通史編、資料編、報告書、別編、付属刊行物)を発行し、府中市の歴史について広く周知し、教育分野での活用ができるようにします。	市民への意識調査により把握します。増加を目指します。
	基準値	来場者 16,551 人(H28 年度)	41.8%(H29 年度)	—	82.9%(H29 年度)
	計 画 終 了 時 の 目標値	19,000 人	50.0%	市制 70 周年事業における事業完了の報告 市史編さん事業全体の残務処理 市史刊行物の補足発行	88.0%
	最 新 の 実績	20,731 人(R6 年度)	23.4%(R5 年度) ※次期計画策定のために実施したアンケートでは、この1年間で文化芸術イベントを鑑賞した市民は約57%、文化芸術活動を行った市民は約35%	市史編さん各専門部会による資料調査を実施 市民刊行物 2 種の発行(近現代通史編下、考古・美術工芸編)。 刊行記念講演会、パネル展などの開催 市史刊行物 2 種を発行予定(近世通史編、民俗編)(R6 年度)	85.0%(R5 年度)
主要な事業		①誰もが参加できる活動や体験、鑑賞活動の拡充 ・市民文化の日 ・府中市民芸術文化祭 ・プロムナードコンサート(芸術劇場)	①伝統芸能や市民の文化・芸術活動の担い手育成 ・府中囃子伝承普及事業 ・武蔵国府太鼓伝承普及事業 ・博物館ボランティア活動(博物館)	①文化財の保存・活用 ・文化財保存活用事業 ・埋蔵文化財保存活用事業 ・武蔵国府跡保存活用事業	①文化資源を活用した府中の魅力発信 ・東京 2020 参画プログラムの推進【R3 終了】 ・観光ガイドツアー ・市民文化の日(再掲)
		②子どもたちの文化創造体験の拡充 ・青少年音楽祭 ・美術鑑賞教室 ・演奏家による音楽ワークショップ(芸術劇場)	②地域の芸術家に対する支援 ・公開制作 ・市民美術展【H31 終了】 ・府中の森めばえコンサート(芸術劇場)	②地域文化の継承と活性化 ・府中市史編さん事業 ・由来碑管理 ・各文化センター圏域交流事業	②地域社会での連携及び交流機会の充実 ・学校協力事業(博物館) ・青少年対策地区委員会育成事業活動 ・各文化センター圏域交流事業(再掲)
		③文化に対する支援環境の整備 ・郷土の森博物館リニューアル事業(博物館) ・府中の森芸術劇場の管理運営(芸術劇場) ・各種情報媒体の活用		③歴史、自然、文化が一体化した魅力的な景観の保全とまちの形成 ・府中水辺の楽校 ・市民花壇 ・馬場大門のケヤキ並木保護対策事業	③多文化共生の推進 ・多言語生活情報紙インフォラインの発行【R5 終了】 ・友好都市との交流促進 ・東京 2020 大会に向けた文化事業(芸術劇場)【R3 終了】

現行計画の施策評価シート

基本施策	基本施策1 だれもが気軽に身近なところで文化・芸術に触れ、喜びと感動を享受できるまちづくり	基本施策2 文化・芸術の担い手育成をはじめとする市民協働によるまちづくり	基本施策3 歴史と伝統により培われた府中固有の文化を大切にし、新たな文化を創造するまちづくり	基本施策4 市内外から人々が集い、文化を通して交流とにぎわいが生まれるまちづくり
評価	①誰もが参加できる活動や体験、鑑賞活動の拡充 ・市民文化の日におけるイベントの開催により、多くの人に文化に触れる機会を提供することができた。 ・府中市民芸術文化祭は、市内の文化芸術団体にとって、日頃の活動成果の発表の場となっている。 ・プロムナードコンサート事業は、参加者のニーズに沿って企画しており、小さな子どもでも楽しめるよう工夫を凝らすことで、親子で鑑賞できる環境を提供している。	①伝統芸能や市民の文化・芸術活動の担い手育成 ・府中囃子伝承普及事業を継続して実施することで、伝統芸能の後継者を育成することができた。 ・武蔵国府太鼓伝承普及事業については、募集人数を上回る応募を受け、好評をいただきながら運営できているが、初級者講習会終了後の講習生の活動の場が少ないことが課題である。	①文化財の保存・活用 評価作成中	①文化資源を活用した府中の魅力発信 ・市民文化の日事業については、キーワードラリーの期間を延長したことで来場者の増加につながった。 ・観光ガイドツアー事業では、四季折々のガイドツアーを企画したり、ガイドボランティアの質向上のために研修を実施したことで、ツアー参加者増加につながり、より多くの人に府中の観光資源に触れる機会を提供することができた。
	②子どもたちの文化創造体験の拡充 ・青少年音楽祭の開催により、市内青少年音楽団体の日頃の練習の成果を発表し、演奏を聴き合う機会を提供することができた。 ・美術鑑賞教室は、市立小中学校と連携して実施しており、子どもたちが美術館で美術にふれる楽しさを体験し、美術への関心を高めている。教員と学芸員が協力して、プログラムの質を長年維持してきており、充実した美術鑑賞体験の機会を子どもたちに提供している。 ・演奏家による音楽ワークショップ事業では、学校教育の一環という企画の意図に賛同いただいた質の高い演奏者を招聘し、市内小中学生に生の音楽を間近で鑑賞できるという特別な環境を用意することができている。	②地域の芸術家に対する支援 ・公開制作は、現役の美術作家が美術館内のスタジオに通い、制作を行う、全国でも珍しいプログラムである。作品制作のプロセスを段階的に見学することができ、また、作家と直接対話ができる創造的体験を提供している。紹介した作家は、その後、全国の美術館や芸術祭等で活躍しており、作家の評価にも寄与している。 ・市民美術展は、市民団体に作品発表の機会を提供し、市民の創作活動を支援してきたが、グループでの活動のあり方の変化や、団体構成員の高齢化に伴い、一定の役割を果たしたとして、開催を止めている。 ・府中の森めばえコンサート公演の来場者は増加しており、「若手音楽家を応援する」ということについては一定の成果を出すことができているが、サポーターが減少傾向にあることから増加に向けた取組を継続する。	②地域文化の継承と活性化 ・由来碑を適切に維持管理することができたが、にぎわいにつながる活用ができていないことが課題である。 ・各文化センター圏域交流事業については、様々な催しを通じて、地域住民の交流や連携、地域文化の継承や活性化に寄与することができた。	②地域社会での連携及び交流機会の充実 ・青少年対策地区委員会育成事業活動事業については、意見交換を実施し、要望に応じた支援することにより、各地区が活動の幅を広げ、より多くの子どもの健全育成につながる活動を推進することができた。

現行計画の施策評価シート

評価	③文化に対する支援環境の整備 ・府中の森芸術劇場の管理運営に当たっては、コロナ禍においては感染予防を行いながら芸術文化の普及に努め、また、コロナ禍以降はデジタル化を進めることで感染症対策と施設利用が共に推進できるよう各種取組を行うなど、時代や環境に応じて必要な対策を続け、市民の文化的活動を後押しできるような取組ができた。 ・市の広報紙及びホームページをリニューアルし、より情報を得やすくするような工夫ができた。また、広報担当として各課に積極的な情報提供を促し、新聞社等のマスメディアへの積極的な情報提供を行うことができた。		③歴史、自然、文化が一体化した魅力的な景観の保全とまちの形成 ・府中水辺の楽校事業では実行委員の高齢化と担い手不足が深刻な問題となっていたため、運営をお手伝いいただくサポーター制度を導入した。サポーターは増加傾向にあり、担い手不足の解消が期待できる。 ・市民花壇事業については参加団体の減少はあったものの、継続して花壇管理活動を行うことができた。	③多文化共生の推進 ・多言語生活情報紙インフォラインの発行事業では、より多くの外国人に必要な情報を届けられるよう、情報発信方法の見直し（SNS の活用、市ホームページへのやさしい日本語自動翻訳機能の導入等）を行った。 ・友好都市との交流促進事業については、コロナ禍での休止期間を除き、青少年ホームステイ相互派遣事業を継続することができた。また、友好協定締結30周年を記念したイベントの開催により、友好都市交流について広く市民に周知する機会を設けることができた。 ・府中の森芸術劇場における東京 2020 大会に向けた文化事業については、コロナによる影響が甚大で関連公演は公演中止などが相次いだ。
----	--	--	---	--